

# 「災害時の医療」とトリアージ

災害時には、同時に多数の負傷者が発生しますが、その一方で、医師や看護師・治療資機材や薬剤といった人的・物的医療資源の数量は平常時と変わりありません。

又、特に震災の場合には、地域の医療機関も被災しますので、むしろ医療資源は平常時よりも減少する上、道路の崩壊などにより、当面の補給手段も断たれるものと予想されます。

## トリアージとは？

「災害時の医療」においては、負傷者の治療に必要な医療資源が圧倒的に不足するため、限られた貴重な医療資源は、出来る限り多くの負傷者を救命するために活かさなくてはなりません。

この目的のために実施されるのが、トリアージで、その語源はコーヒー豆の選別をする際に使われたフランス語に由来しますが、負傷者を重症度や緊急度に応じて振り分け、治療に優先順位を付けることをいいます。

トリアージの判定は、負傷者における治療の必要度・緊急度により、次のように、黒タグ～緑タグまでの4段階に分かれています。

黒タグ：意識や呼吸・心拍などの生命徴候がないもの

赤タグ：生命・四肢の危機的な状態が存在し、直ちに処置が必要なもの

黄タグ：2・3時間処置を遅らせても悪化しないが、専門医の診療が必要なもの

緑タグ：通院できる外傷で、必ずしも専門医の診療を必要としないもの

実際の災害時には、負傷者の治療を行う前に、トリアージ担当者が医療救護所や病院の入り口で負傷者を診察して、負傷者における治療の必要度・緊急度を判定し、その結果をトリアージ・タグに記入して負傷者の右手首（原則）に付けていきます。

**例えば、医療救護所や病院に運ばれた時点で呼吸も心拍も殆ど停止しているような場合は、平常時ならば何人もの医療スタッフが付ききりとなって機材や薬剤そして時間を惜しむことなく心肺蘇生を試みますが、災害時には、もはや救命の見込みは極めて少ないため、心肺蘇生は断念して黒タグが付けられます。**

又、切り傷や火傷などを負った方が自力で医療救護所や病院を受診した場合も、緊急性のない状態であり治療を待てる外傷と判断できれば、平常時とは異なり、消毒後にガーゼで被う応急処置のみで済ませることもあります。（緑タグ）

これらは、いずれも、より緊急度が高く、そして、より救命の可能性のある方に対して、限られた貴重な人的・物的医療資源を優先して振り向けるための「苦しい選択」なのです。

## 「災害時の医療」の特殊性にご理解を！！

**「災害時の医療」は、負傷者に対して医療資源が人的にも物的にも圧倒的に不足している状況で行われるため、限られた医療資源を最大限に活かして、救命可能な負傷者を優先して治療するという、平常時とは全く異なった視点で行わざるを得なくなります。**

災害救護に関わる人達は、もちろんですが、一般の方々も、このことを十分に理解しておかないと、いざ災害という時に、不幸にして死亡された方に対して平常時同様に最善の治療を求める家族の方や我先にと治療を求めて殺到する軽症外傷者などにより、医療救護所や病院は大混乱となるだけでなく、結局、本来ならば助かるはずの人達までもが命を落としてしまった、という最悪の事態を招きかねません。